

卒業研究 総合格闘技について

About integrated combative sports

1K03A209-2 氏名 水野賢志

指導教員 主査 寒川恒夫 先生 副査 小野沢弘史 先生

<はじめに>

総合格闘技の選手にはそれぞれ出身とする格闘技がある。それはボクシングや空手などの打撃系格闘技とレスリングや柔道などの組技系格闘技であるが、どちらの技術を持った選手が強いのだろうか。私は後者が強いのではないかと思い、実際どちらが強いのか調べ、考察していくことにした。

<序論>

総合格闘技とは、打撃・組技が混合した何でもありの格闘技である（もちろん目つきや噛みつき等禁止している場合がある）。日本で総合格闘技という名称を作ったのは前田日明である。総合格闘技は現在、日本の PRIDE とアメリカの UFC を開催する二大勢力が中心となって盛んに行われている。総合格闘技のイベントは世界中の各国・各地で多数開催されている。日本では PRIDE 以外にも修斗、パンクラス、2005 年立ち上げ HERO'S 等の大会がある。

<第一章>

総合格闘技の歴史の中には UWF 時代、UFC 時代、PRIDE 時代と三つの背景がある。その時代の中で、修斗（世界で初めての総合格闘技団体）や UWF 系の選手がグレシー柔術と対戦し、日本格闘技界は柔術の技術を取り入れ、今日の「総合格闘技」というジャンルを形成・確立した。

<第二章>

現在日本でメジャーな総合格闘技のイベントとして PRIDE と HERO'S がある。この PRIDE と HERO'S の優勝者・準優勝者をピックアップし、それぞれのバックボーンを調べた。その結果、レスリング、柔術、柔道の勝率が高いことが分かった。

<第三章>

組技系格闘技のレスリング、柔術、柔道の三種類を説明する。

レスリングは全てのスポーツの基礎と言える。それは全身の筋力や持久力や柔軟性、更には体を自由に動かす器用さを培うからである。このことから分かるが、レスリング出身者は総合的にバランスがよく、器用な動きからくるフットワークやタックルを応用した攻撃がある。

柔術とは本来、日本独特の徒手武術である。しかし、今日の総合格闘技を話す上での柔術はブラジリアン柔術を

指す。ブラジリアン柔術とは、ブラジルに移民した日本人柔道家がその技術を現地の人に伝え、それが彼らに改良され広まったものである。柔道をベースとしているが寝技主体の着衣格闘技である。

柔道（じゅうどう）は、明治 15 年に嘉納治五郎が創始した武道であり、正式名称は「日本伝講道館柔道」という。単なる勝利至上主義ではなく、精神鍛錬を目的としている。剣道や空手道と並び、日本でもっとも広く行われている武道の一つである。

<第四章>

この章では 2005 年 HERO'S ミドル級優勝者の山本“KID”徳郁選手と同じく 2005 年ミドル級準優勝の須藤元気選手について考察した。

KID 選手は幼少時代からレスリングをしてきた。これまで打撃による KO 勝利がほとんどで寝技を使っていない試合が多い。この数々の KO 勝利をもたらしたのがレスリングで身につけた能力である。それはレスリングで鍛え抜かれた強靱な肉体と突進力（タックル）である。KID 選手は総合格闘技の試合でレスリングのようなタックルはしてはいないが、タックルを応用とした突進力に強みがあると感じる。

須藤選手も KID 選手同様、レスリングをバックボーンとしている。またそれだけでなく、ブラジリアン柔術もある。須藤選手の試合はレスリングとブラジリアン柔術で鍛えた組技を活かし、打撃による KO 勝利ではなく、寝技一本による勝利が圧倒的に多い。

<結論>

私は打撃系格闘技と組技系格闘技ではどちらが強いのだろうかという論点に絞って研究した結果、やはり組技系格闘技出身者の勝率が高いということが分かった。なぜなら「組技と打撃の技術は覚えるスピードが違う」からである。打撃系格闘技に比べ、組技系格闘技における寝技の技術は技の種類も多く、短期間の練習では覚えにくいものである。つまり技のかけ方を頭だけで理解していても、体で覚えなければ、実践では使いものにならないのである。寝技というものが実に奥が深く、組技（寝技）を覚えるには、一朝一夕ではいけないということが言える。